

【講義4】くずし字について

恋田 知子

一、はじめに

古典文学の原典や前近代の写本や版本などの「古典籍」は、現在通行している字体や書体とは異なる文字、「くずし字」で文字を表している。その習得は、「あ」から「ん」までの四十八の変体仮名（平仮名のくずし）を覚えることにはじまる。

平仮名は、漢字の音を表すために用いられた文字である「万葉仮名」を簡略にすることで生み出された。基となった漢字「字母（じぼ）」は、現在では四十八の音を表すのに四十八の仮名文字に限られているが、かつては複数の字母を用いた仮名表記がなされていた。まずは、使用頻度の高い字母およそ150（48×約3）を覚えることをおすすめしたい。さらに、読みたい資料にあわせた辞典類を適宜用いながら、読解の練習を重ねることで、漢字を含めたくずし字も習得できよう。

古典籍を取り扱う上で必須の「くずし字」を習得する手引きとして、あるいはレファレンスや利用者向け講座などの業務上のヒントとして、本講座をご活用ください。

二、くずし字とは

- 1、文字資料のうち、楷書の点画（てんかく）を省略した手書き文字、そして手書き文字をもとにした版本の文字。古典籍や古文書などの表記に用いられる。伝存資料が多いことから、近世資料を中心として「くずし字」の範疇に入れる傾向にある。
- 2、「くずし字」という用語自体は、おもに歴史学や日本文学、書誌学の研究分野で使用される。書道史では行書、草書など、点画の省略段階を区分し、「くずし字」という包括的な用語は使用しない。ただし、書道史研究の対象外とされやすい近世文書や古典籍の文字については、明確な区分が存在しないことから、「くずし字」という他の研究分野での用語がそのまま一般的に使われている。

三、くずし字の見方

- 1、点画の省略

楷書の点画の省略方法には、一定の法則がある。また、時代、地域、個人単位で点画の省略に特徴が見られる場合も多い。→波多野幸彦・東京手紙の会『くずし字辞典』（思文閣出版）など参照。

2、変体仮名

現行の標準字体の仮名とは異なった字体・書体の仮名。明治33年（1900）「小学校令施行規則」で採用されたものとは異なる仮名で、古文書や古典籍を読む上で必須。それぞれ仮名のもととなった漢字を字母という。→【補助資料・変体仮名一覧表】参照。より詳細な変体仮名の字体表は、『日本国語大辞典 第2版』（小学館）や『日本史必携』（吉川弘文館）などに掲載。

3、連綿体

二文字以上の文字を続けて書く書体。「つづけ字」と俗称する場合もある。一字一字の区分に注意が必要。

4、異体字、別体字、俗字

通行の字体以外の字体。→日外アソシエーツ編集部『漢字異体字典』（日外アソシエーツ、1994）など参照。

5、敬語・付属語

敬語は単独以外に、「申候」「御座候」などのような定型句として出現することも多く、字画を大きく省略した連綿体となっている。また、「社（こそ）」や「斗（ばかり）」など補助的な品詞として働く語も漢字表記されることがある。

6、反復記号（踊り字）

同一の漢字や仮名を重ねる場合、「々」や「々々」など符号で表記することが多く、踊り字あるいは疊語などと総称する。

四、くずし字の読み方

1、漢字と仮名の判別

崩して書かれている文字が漢字なのか、仮名なのかを判別する。

2、前後の文章から文字を類推する

一文字では複数の読み方が可能な場合でも、前後の文章から最適な読みを試みる。→特定の地名や人名などは、判別が難しいため、地名辞典や人名辞典を活用する。

3、清音と濁音の判別

基本的に古典籍の表記では、文字に清濁の別がついていない。濁点「゛」や半濁点「゜」は文章の前後で判断して、解読する側で読むこととなる。→稀に濁点などが付されている資料もある。また、同じ語でも清濁は時代によって異なる場合があるため、時代別の辞書などで確認する。

くずし字を読むための主な参考資料

【辞典・字典】

林英夫ほか編『増訂近世古文書解読字典』(柏書房、1972)

伊地知鐵男『増補改訂 仮名変体集』(新典社、1975)

若尾俊平・服部大超『検索自在くずし字解読字典』(柏書房、1984)

浅井潤子・藤本篤『古文書判読字典』(柏書房、1988)

中田易直ほか編『かな用例字典』(柏書房、1988→1994 新装版)

林英夫『古文書字叢』(柏書房、1990)

林英夫『新編古文書解読字典』(柏書房、1993)

児玉幸多『くずし字用例辞典 普及版』(東京堂出版、1993 再版)

児玉幸多『くずし字解読辞典 普及版』(東京堂出版、1993 再版)

くずし字研究会『画引きくずし字解読字典 増補改訂・索引付』(新典社、1994)

大石学『改訂新版古文書解読事典』(東京堂出版、2000)

波多野幸彦・東京手紙の会『くずし字辞典』(思文閣出版、2000)

林英夫『江戸版本解読大字典』(柏書房、2000)

林英夫『音訓引き古文書字典』(柏書房、2004)

法書会編集部『五體字類 増補机上版』(西東書房、2004)

林英夫『入門古文書小字典』(柏書房、2005)

森岡隆『図説かなの成り立ち事典』(教育出版、2006)

笠間影印叢刊刊行会編『字典かな一写本をよむ楽しみ』(笠間書院、2006 新装版)

江守賢治『草書検索字典』(三省堂、2007)

飯島春敬『古典かな字鑑 携帯版』(書藝文化新社、2008)

【教材】

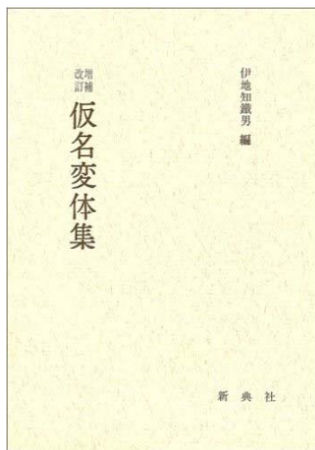
若尾俊平『図録古文書入門事典』(柏書房、1991→2005 新装版)

林英夫『基礎古文書のよみかた』(柏書房、1998)

吉田豊『寺子屋式古文書手習い』（柏書房、1998）
アダム・カバット『妖怪草紙くずし字入門』（柏書房、2001）
柏書房編集部『覚えておきたい古文書くずし字 200 選』（柏書房、2001）
柏書房編集部『覚えておきたい古文書くずし字 500 選』（柏書房、2002）
宗像和重・兼築信行『くずし字速習帳 近代篇』（早稲田大学文学部、2004）
吉田豊『寺子屋式古文書女筆入門』（柏書房、2004）
中嶋隆・兼築信行『くずし字速習帳 近世版本集篇』（早稲田大学文学部、2005）
吉田豊『寺子屋式続古文書手習い』（柏書房、2005）
兼築信行『一週間で読めるくずし字 伊勢物語』（淡交社、2006）
兼築信行『一週間で読めるくずし字 古今集・新古今集』（淡交社、2006）
小島孝之『古筆切で読む くずし字練習帳』（新典社、2006）
菅野俊輔『書いておぼえる「東海道五十三次」くずし字入門』（柏書房、2007）
菅野俊輔『書いておぼえる「江戸名所図絵」くずし字入門』（柏書房、2007）
益田孝『古文書・手紙の読み方』（東京堂出版、2007）
吉田豊『古文書をはじめめる前の準備講座』（柏書房、2008）
井上八雲『変体仮名で読む源氏物語全和歌』（新典社、2010）
武井和人『日本古典くずし字読解演習』（笠間書院、2010）
中野三敏『古文書入門くずし字で「百人一首」を楽しむ』（角川書店、2010）
中野三敏『古文書入門くずし字で「おくのほそ道」を楽しむ』（角川書店、2011）
西田知己『江戸のくずし字学習図鑑』（東洋書店、2011）
中野三敏『古文書入門くずし字で「東海道中膝栗毛」を楽しむ』（角川書店、2012）
中野三敏『古文書入門くずし字で「徒然草」を楽しむ』（角川書店、2013）
油井宏子『古文書くずし字見わけかたの極意』（柏書房、2013）
角田恵理子『国芳も春画も読めるわかる はじめてのくずし字教室』（講談社、2016）
小林正博『これなら読める!くずし字・古文書入門』（潮出版社、2018）
小井土守敏・君嶋亜紀・倉住薫・高木元『大妻女子大学蔵本で読む くずし字』（大妻女子大学人間生活文化研究所、2018）→HP 上に無料公開

※本講義資料の作成に際しては、これまで当館にて開催された日本古典籍講習会資料（くずし字担当：加藤昌嘉・海野圭介・江戸英雄・中村健太郎・齋藤真麻理）を参照した。

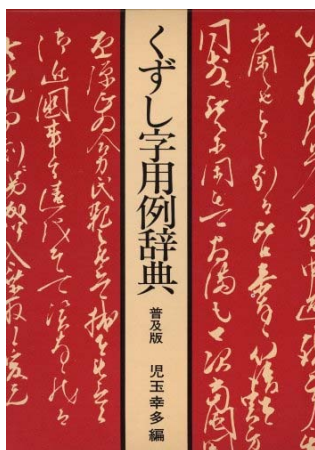
くずし字を読むための参考資料



伊地知鐵男編
『増補改訂 仮名
変体集』(新典社、
1975年) 378円



笠間影印叢刊刊行会編
『字典かな—写本をよむ
楽しみ』(笠間書院、2006
年新装版) 842円

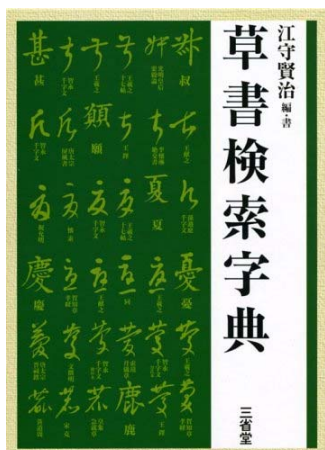


児玉幸多編『くずし字
用例辞典 普及版』
(東京堂出版、1993
年再版) 6,264円

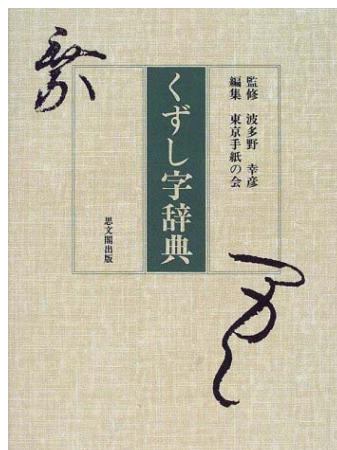


児玉幸多編『くずし字解
読辞典 普及版』(東京
堂出版、1993年再版)
2,376円

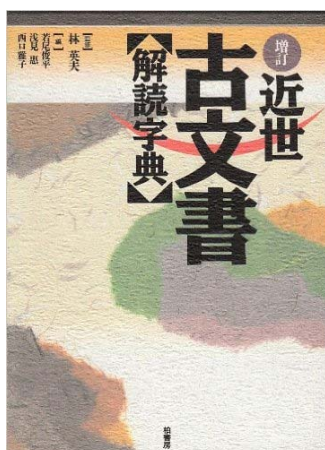
くずし字を読むための参考資料



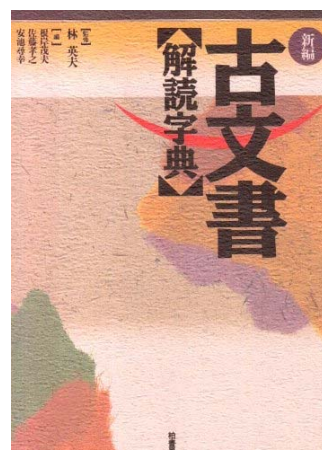
江守賢治編・書
『草書検索字典』
(三省堂、2007年)
10,260円



波多野幸彦・東京手紙
の会編『くずし字辞典』
(思文閣出版、2000年)
6,480円



林英夫ほか編『増訂
近世古文書解読字
典』(柏書房、1972
年) 2,726円



林英夫編『新編古文書
解読字典』(柏書房、
1993年) 3,356円

くずし字をめぐる近年の動向



UCLA・早稲田大学
「変体仮名あぶり」

まなぶ

はじめに

「まなぶ」機能の使い方

くずし字学習の基本

文字検索

変体仮名をまなぶ

まなぶ よむ つながる アプリについて

大阪大学
くずし字学習支援アプリ
KuLA



飯倉洋一編
『アプリで学ぶくずし字—くずし字学習支援アプリ KuLAの使い方』
(笠間書院、2017年) 864円

動画・変体仮名百語
100 Classical Kana Words in Motion

変体仮名を読み解こうと思えば、まず単体の文字とその変形を覚え、つぎのステップはかなの連続である。デジタル環境において、切り取った実例とそれが置かれた作品との関連を簡単に提示することが出来るようになり、仮名の字形を動きをもって解説することも可能になった。ここに「国宝」で公開されている平安や鎌倉時代の二十作品から百語を選び、動画解説を試みた。古典文字の美しさを堪能しつつ、変体仮名を身近に感じ取ることに役立てればと願う。

To understand classical kana, the first step is to memorize each single character and its origin, then move to multiple kana in a line. The digital technology provides a possibility to connect examples and its original work, and to explain the shape of kana through a motion. Here I selected 100 words from 20 titles available at e-Museum, created motion pictures to show the writing process. Please enjoy the beauty of the writing, and approach to classical kana at your own pace.

スタート リスト 小テスト

作者: 楊曉捷
Author: X. Jie YANG

楊曉捷 (X. Jie YANG)
Classical Kana
変体仮名百語

くずし字をめぐる近年の動向

『電子くずし字字典データベース』『木簡画像データベース・木簡字典』連携検索

東京大学史料編纂所 奈良文化財研究所

『電子くずし字字典データベース』『木簡画像データベース・木簡字典』連携検索へようこそ

2009年10月より、東京大学史料編纂所と奈良文化財研究所は、文字を最も解くツールとしてわれわれ開発した上記2つのデータベースについて、相互に連携検索サービスを開始しました。両者を別にする再研究が、極めて取り組み困難な事となり、幅広くご利用いただけますようお願いいたします。

両データベースが連携することを通じて、東京大学史料編纂所が集める古文書・古記録の字形・字種と、奈良文化財研究所が蓄積する木簡の字形・字種も、一貫に探すことが可能となりました。戦国・室町時代から江戸時代に至るまでの1000年を誇る、文字の変遷を御覧いただけるはずです。

資料請求画面へ

連携検索とは >>>

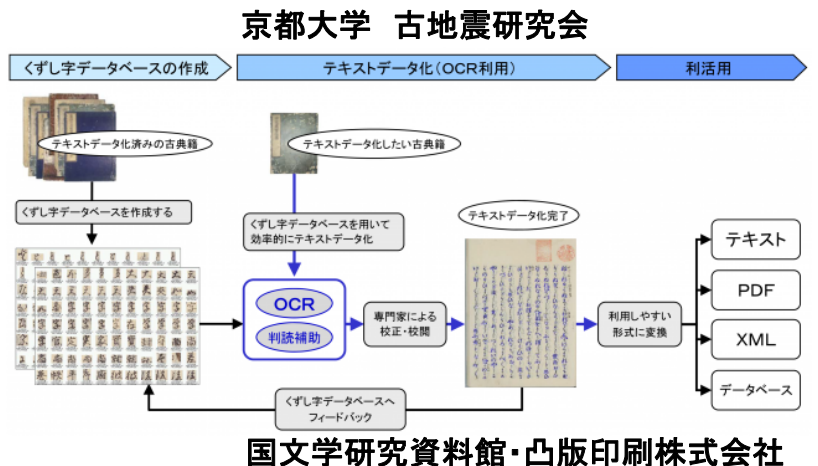
Copyright (C) 2009 東京大学史料編纂所, 奈良文化財研究所 All Rights Reserved.

東京大学史料編纂所
「電子くずし字字典データベース」
奈良文化財研究所
「木簡画像データベース・木簡字典」

みんなで翻刻
【地震史料】

古文字・古記録を翻刻して、歴史研究に役立てよう!

京都大学 古地震研究会



身近にあるくずし字



正月読み初めの吉書『文正草紙』を読んでみよう



国文学研究資料館蔵『文正草紙』
〔江戸中期〕写 奈良絵本

『文正草紙』は、常陸国鹿島大明神の大宮司に仕えていた文太(後に文正)が塩焼きで財を成し、授かった娘は帝に嫁ぎ、最後は宰相の位にまで昇ったという祝儀物のお伽草子(室町物語)。

その祝言性から、正月読み初めの吉書や嫁入りの調度品にされるなど、豪華な絵巻・絵本が多数制作された。

正月読み初めの吉書『文正草紙』を読んでみよう

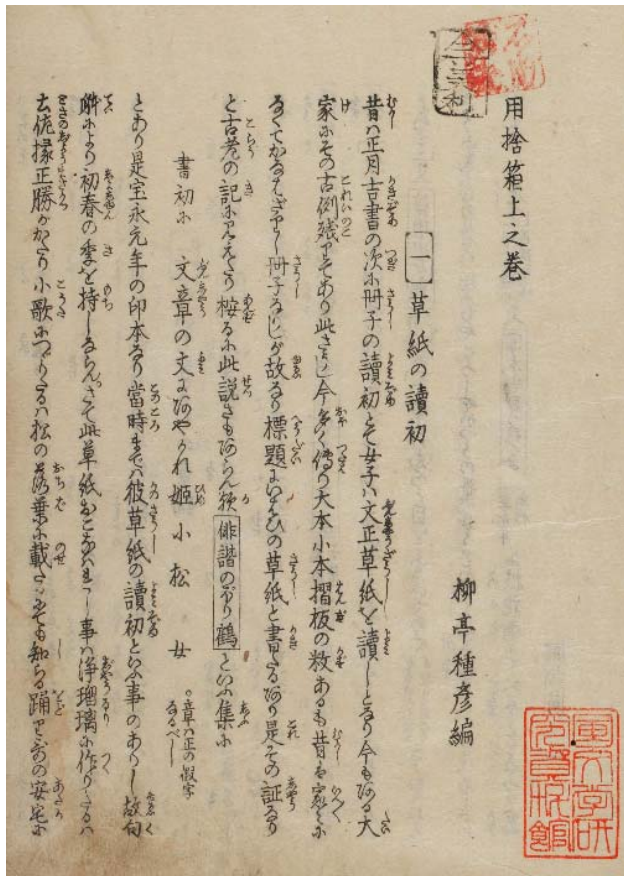
柳亭種彦『用捨箱』上之巻 天保十二年（一八四一）刊

昔は正月吉書の次に冊子の読初とて女子は文正草紙を読しとなり。今もある大

家にその古例残りてあり。此さうし今多く伝り大本小本摺板の数あるも昔は家々に

なくてかなはざりし冊子なりしが故なり。標題にはひの草紙と書たるあり。是の証なり

と古老の記に見えたり。（後略）



国文学研究資料館蔵『用捨箱』冒頭

正月読み初めの吉書『文正草紙』を読んでみよう

□□□より□□にいたるまで□□

り

□□ことをきつたふる中にもい

た

やしきものゝ殊外に成□□□より

何

□□□までつるに物うき事なく

と

□□□□はひたちの国□□□□文

り

正と申ものにてそ侍りけるその故

何

